

西洋政治思想史 II

科目ナンバリング HIT-206
選択 2単位

石川 敬史

1. 授業の概要(ねらい)

政治思想史という学問は、歴史学とリンクしながらも歴史学とは趣異なる学問です。歴史学とはエビデンス(証拠)とファクト(事実)からありのままの真実を追求する学問ですが、政治思想史という学問は、「人間が世界をどのように観てきたか」、そして「価値判断」の基準をどのように構築してきたかを考察する学問です。規範を持っている、あるべき価値判断ができるというのが、人間と動物を分ける違いだとするなら、政治思想史とは人間学でもあります。それを歴史的に外観するのが政治思想史です。そして、今日我々が生きている世界の「あるべき姿」の支配的思考様式となったのが西洋政治思想です。この授業を通して、西洋的価値観とは何かを把握するのが授業の狙いとなります。それはとても楽しい営みですので、ぜひ楽しむつもりで参加してください。
後期は、初期近代における社会契約論を入念に行い、さらに現代に至る思想状況を検討します。

2. 授業の到達目標

現在の世界で目にする状況を、思想史の文脈から理性的に考えることができるようになる。
西洋中心主義を相対化し、多様な世界を理解することができるようになる。
今日、教養と言われるものの基本的概念を獲得することができる。

3. 成績評価の方法および基準

前期に2回提出する小レポート: 20%
授業最終日に行われる授業内試験: 80%

4. 教科書・参考文献

教科書
特に指定しない。授業毎に資料を配布します
参考文献
堤林剣 政治思想史入門 慶應義塾大学出版会

5. 準備学修の内容

復習中心で学修を行なってください。配布した資料をよく読み返し、ノート作りを行なってください。

6. その他履修上の注意事項

教員への質問は遠慮なく行ってください。よく分からない箇所を消し込んでいってください。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス
授業の運営方針、後期授業の概要、単位取得要件の説明
- 【第2回】 トマス・ホブズの政治思想(1)
1 近代国家への道
2 ホブズの哲学と思想
- 【第3回】 トマス・ホブズの政治思想(2)
1 『リバイアサン』と社会契約説
2 自然状態という思考実験
3 科学と法学による伝統の打破
- 【第4回】 ジョン・ロックの政治思想(1)
1 革新的にして敬虔なるジョン・ロック
2 ロックの自然状態と政治社会
- 【第5回】 ジョン・ロックの政治思想(2)
1 『統治二論』と社会契約説
2 ホブズとロックの比較
3 ロックの『統治二論』の背景とその影響
- 【第6回】 ジャン＝ジャック・ルソーの政治思想(1)
1 異常なる才能の理想と現実
2 『学問芸術論』と『人間不平等起源論』の検討
- 【第7回】 ジャン＝ジャック・ルソーの政治思想(2)
1 『社会契約論』という奇怪なる書物の内容
2 『エミール』という偉大にして歪な教育論
- 【第8回】 ルソーの政治思想の「その後」としてのフランス革命(1)
1 フランス革命—人民主権を求めた苦闘の果て
2 「人権宣言」、「1791年憲法」
- 【第9回】 ルソーの政治思想の「その後」としてのフランス革命(2)
1 ジャコバン派の台頭と恐怖政治
2 ナポレオン帝政とフランス革命の伝搬
- 【第10回】 アダム・スミスと経済思想
1 スコットランド啓蒙
2 市場の発見
- 【第11回】 資本主義を考える
1 マックス・ヴェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
2 エリック・ウィリアムズの『奴隷制と資本主義』
- 【第12回】 社会主義思想
1 空想的社会主義
2 カール・マルクスの「科学的」社会主義
3 『資本論』と『共産党宣言』

- 【第13回】 現代民主主義を考える
 - 1 政治思想史における民主主義の再確認
 - 2 民主主義とポピュリズム
- 【第14回】 まとめと授業内試験
- 【第15回】 LMSによる総括講義